【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】令和2年4月23日(2020.4.23)

【公表番号】特表2019-510730(P2019-510730A)
【公表日】平成31年4月18日(2019.4.18)
【年通号数】公開・登録公報2019-015
【出願番号】特願2018-521851(P2018-521851)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　8/9794　(2017.01)
Ａ６１Ｑ　1/00　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　19/00　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　3/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/73　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/46　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/34　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/36　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　8/9794
Ａ６１Ｑ　1/00
Ａ６１Ｑ　19/00
Ａ６１Ｑ　3/00
Ａ６１Ｋ　8/73
Ａ６１Ｋ　8/46
Ａ６１Ｋ　8/34
Ａ６１Ｋ　8/36

【手続補正書】
【提出日】令和2年3月13日(2020.3.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
（ａ）キビ（Panicum miliaceum）の抽出物、
（ｂ）イネ（Oryza sativa）からの少なくとも１種の植物抽出物、
（ｃ）少なくとも１種の膜形成剤、および
（ｄ）薬学的に許容される賦形剤
を含む、皮膚化粧用組成物。
【請求項２】
前記皮膚化粧用組成物が、
（ｅ）少なくとも１種のケラチン、および／または
（ｆ）ビオチン
を任意に含む、請求項１に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項３】
前記皮膚化粧用組成物が、局所使用のためであり、医薬ゲル、マニキュア液、ローション、溶液または懸濁液の形態である、請求項１または２の何れか一項に記載の皮膚化粧用組成物。

【請求項４】
前記抽出物が、乾燥されているか、アルコール性であるか、水性アルコール性であるか、またはグリコール性である、請求項１に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項５】
前記キビ抽出物が、好ましくはグリコール抽出物であり、植物の種子から得られ、前記組成物の総重量の約０．０１％～約１０．０％の範囲で存在する、請求項１または４の何れか一項に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項６】
前記イネ抽出物が、イネ（Oryza sativa）、イネ・変種ファツア（Oryza sativa var. fatua）、イネ・変種グランディグルミス（Oryza sativa var. grandiglumis）、イネ・変種ラチフォリア（Oryza sativa var. latifolia）、イネ・変種パラグアイエンシス（Oryza sativa var. paraguayensis）、イネ・変種スンデンシス（Oryza sativa var. sundensis）、イネ・亜種ファツア（Oryza sativa subsp. fatua）、イネ・亜種ルフィポゴン（Oryza sativa subsp. rufipogon）からなる群から選択される、請求項１に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項７】
前記イネ抽出物が、好ましくは、加水分解されたグリコール抽出物であり、植物の種子から得られ、前記組成物の総重量の約０．００１％～約５．０％の範囲である、請求項１または４の何れか一項に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項８】
前記膜形成剤が、セルロース誘導体、多糖、アラビアガムまたは水に可溶である任意の他の膜形成剤およびこれらの混合物からなる水溶性膜形成剤の群から選択される、請求項１に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項９】
前記膜形成剤が、アラビアガムおよび多糖の混合物を含み、前記組成物の総重量の約０．５％～約１５％の範囲で存在する、請求項８に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項１０】
前記多糖が、プルランであり、前記組成物の総重量の約７％～約１３％の範囲であり、アラビアガムが、前記組成物の総重量の約０．５％～約２％の範囲であり、請求項９に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項１１】
前記ケラチンが、その加水分解または非加水分解形態であり、前記組成物の総重量の約０．１％～約１％の範囲で存在し、ビオチンが、前記組成物の総重量の０．００１％～０．１％の範囲で存在する、請求項２に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項１２】
前記ケラチンが、加水分解物の形態であり、前記組成物の総重量の約０．３％～約０．６％の範囲で存在し、ビオチンが、前記組成物の総重量の約０．００７％～約０．０２％の範囲で存在する、請求項１１に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項１３】
前記薬学的に許容される賦形剤が、粘性剤、湿潤剤、保存剤、有機溶剤および水性ビヒクルを含むが、これらに限定されない、請求項１に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項１４】
前記粘性剤が、アルギン酸、ベントナイト、カルボマー（カーボポール）、メチルセルロース、ジメチルスルホン、アルギン酸ナトリウム、トラガカントおよびこれらの混合物からなる群から選択され、前記組成物の総重量の約１％～約１０％の範囲で存在する、請求項１３に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項１５】
前記粘性剤が、ジメチルスルホンであり、前記組成物の総重量の約４％～約６％の範囲で存在する、請求項１４に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項１６】

前記湿潤剤が、グリセロール（グリセリン）、プロピレングリコール、ソルビトール、トレハロース、トリアセチン、シクロメチコンおよびこれらの混合物から選択され、前記組成物の総重量の約０．５％～約１０％の範囲で、前記組成物中に存在する、請求項１３に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項１７】
前記湿潤剤が、グリセリンであり、前記組成物の総重量の約１％～約４％の範囲で存在する、請求項１６に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項１８】
前記保存剤が、フェニルプロパノール、ブロノポール、ブチルパラベン、エチルパラベン、イミダゾリジニル尿素、メチルパラベン、フェノキシエタノール、安息香酸ナトリウム、ソルビン酸カリウムおよびこれらの混合物からなる群から選択され、前記組成物の総重量の約０．１％～１．５％の範囲である、請求項１３に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項１９】
前記保存剤が、安息香酸ナトリウムおよびソルビン酸カリウムの混合物であり、前記組成物の総重量の約０．２％～約０．６％の範囲で存在する、請求項１８に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項２０】
前記有機溶剤が、短鎖アルコール（メタノール、エタノール、イソプロパノール等）、短鎖ケトン（アセトン、メチルエチルケトン等）、軽炭化水素または軽炭化水素の混合物（ヘキサン、石油エーテル等）、軽塩素化炭化水素（クロロホルム、メチレンヒドロクロリド、エチレントリクロラールハイドレート等）およびこれらの混合物から選択され、前記組成物の総重量の約５％～約４０％の範囲である、請求項１３に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項２１】
前記有機溶剤が、エタノール（エチルアルコール）であり、前記組成物の総重量の約２０％～約３０％の範囲で存在する、請求項２０に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項２２】
前記水性ビヒクルが、前記組成物の最終体積に十分な量の水である、請求項１３に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項２３】
前記皮膚化粧用組成物が、爪の保護、爪の強化および爪の障害の回復に作用する、請求項１～２２の何れか一項に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項２４】
前記皮膚化粧用組成物が、局所使用のための組成物である、請求項１～２２の何れか一項に記載の皮膚化粧用組成物。
【請求項２５】
請求項１～２４の何れか一項に規定される局所用組成物を製造するための方法であって、工程：
（ｉ）コロイド溶液の調製：
ａ）適切な容器中、ゆっくりかつ絶え間なく撹拌しながら、最終体積（１００％）になるよう適量に計算した水の総量を添加し、ビオチンならびに保存剤、安息香酸ナトリウムおよびソルビン酸カリウムを溶解すること；
ｂ）完全に溶解するまでゆっくり撹拌しながら混合物にプルランを添加すること；
ｃ）完全に溶解するまでゆっくり撹拌しながらアラビアガムを添加すること；
ｄ）完全に溶解するまでゆっくり撹拌しながら混合物にジメチルスルホンを添加すること；
ｅ）完全に溶解するまでゆっくり撹拌しながら混合物に、ハイドロケラチン、キビ（Panicum miliaceum）の抽出物、イネ（Oryza sativa）の抽出物およびグリセリンをゆっくり添加すること；
ｆ）混合物が完全に均質化するまで、混合物を撹拌しながら、エタノールをゆっくり添

加すること；
ｇ）最終体積を水（適量）で調節すること；
ｈ）完全に均質化し、均一相が形成するまで、約４０～６０分の期間、混合物を穏やかにかき混ぜ続けること；ならびに
ｉ）完全な均質化後、およそ４時間の期間、混合物をゆっくりかき混ぜ続けること、
（ｉｉ）組成物の包装
を含む、方法。
【請求項２６】
脆弱爪を強化するための方法であって、請求項１～２４の何れか一項に規定される組成物の局所適用を含む方法。
【請求項２７】
請求項１～２４の何れか一項に規定される組成物の使用であって、前記使用が、爪の障害の処置のための局所用組成物の調製における使用である、使用。
【請求項２８】
前記爪の障害が、脆弱爪症候群、爪甲剥離症および爪裂症に関する、請求項２７に記載の組成物の使用。